企画展「生誕 140 年 YUMEJI 展　大正浪漫と新しい世界」関連イベント

見取り図・リリーさんによるトークイベント

開催日時　2025 年 6 月 8 日(日)13 時～/15 時～
場　所　富山県水墨美術館映像ホール・展示室

【登壇者】
リリー(見取り図)
谷優子(富山テレビ放送アナウンサー)
丸山多美子(富山県水墨美術館学芸員)

※13 時回と 15 時回の内容を合わせて抜粋しています。

谷）皆様、大変長らくお待たせいたしました。本日はお忙しい中、「YUMEJI 展」見取り図・リリーさんトークイベントにご参加いただき、誠にありがとうございます。私は本日の司会を務めます、富山テレビ放送アナウンサーの谷優子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
まずはじめに、このたびの展覧会は、岡山県にあります夢二郷土美術館のコレクションを中心に、日本やアメリカ、ヨーロッパに至る夢二の生涯を、これまでとは異なる視点と研究から選んだ、180 点をこえる作品や資料により紹介・展示しています。
本日のトークイベントは、お笑い芸人の見取り図・リリーさんと富山県水墨美術館学芸員・丸山多美子さんと一緒に、大正ロマンを象徴する芸術家、竹久夢二の魅力を深堀りしていきたいと思います。丸山さんどうぞよろしくお願いいたします。
それでは早速、ゲストをお迎えいたしましょう。お笑い芸人、見取り図のリリーさんです！

リリー）リリーです。よろしくお願いします。僕だけ席が小上がりなの、なんなんですか。ちょっと恥ずかしいですね。
谷）殿様席をご用意しました。リリーさん、富山へいらしたことはありますか。
リリー）３回か４回はありますね。この間も特番とかありましたし、３年ぐらい前も番組で行きましたし、何回かあります。
谷）どんな印象をお持ちですか。
リリー）寿司がうまい！特に好きなネタは鯛です。ブリが有名なのは知らなかったです、今晩食べてみます。エビが有名なのは知っています。あとはホタルイカも。ほたるいかミュージアムがあるんですよね。あと、ますのすしミュージアムも！

谷）ますずしはお店によって全然味が違うんですよ。皆さんそれぞれ贔屓のお店があって。

リリー）ますずし、お土産だけじゃなくて地元の方も食べるんですね。買って帰ろうかな。盛山と 2 人で分けっこして食べようかな。ちなみに僕は岡山出身ですが、きびだんごは食べないです。

谷）先ほど水墨美術館の館内をすごく熱心にご覧いただいて、丸山さん質問攻めでしたよね。

リリー）水墨美術館のコレクションが展示されている常設展を見させてもらって。茶室も行きました。あと庭も見ましたけど、結構すごい金かかってそう。ガラス越しに見える景色が最高ですね、これも一つの作品だと思いました。桜の季節に来たいなあ。きれいでしょうね。珍しいぐらい和にこだわっている美術館だなと思いました。こだわりがある美術館、素晴らしいですね。

丸山）ありがとうございます。日本の美を紹介する美術館なんですよ。

リリー）合間に飲んだコーヒーがおいしかったです。館内カフェの「水の時計」の水出しコーヒー。富山の水がいいんでしょうね。

谷）リリーさんは色んな展覧会を見に行って発信もされていますが、生活の中にアートを取り入れることは何かされていますか。

リリー）好きな作家であるピカソとマティスのリトグラフは部屋に飾って楽しんでいます。家が美術館みたいな感じです。

谷）展覧会はお 1 人で行かれることが多いですか。

リリー）基本的に 1 人ですね。でも最近は仕事で行くことも多いので、趣味と仕事が重なっている感じで楽しいです。芸人仲間とはそういう話はしないですね…。

谷）では、リリーさんのプロフィールを簡単にご紹介します。1984 年、岡山県の生まれで…

リリー）えっ、夢二じゃなくて僕の紹介してくれるんですか。ありがとうございます。

谷）気になるのが美術の教員免許をお持ちというところですね。先生になりたかったんですか。

リリー）実は免許持っているんです。先生になろうかなとも思いましたが、教育実習に行って「大変すぎる！これは無理だ」とあきらめました。

谷）小さい頃から絵を描くのがお好きだったんですか。

リリー）絵を描くことが好きというより、気付いたら絵が上手かったって感じですね。かっこいいことを言ってるわけじゃなくて、実は高校受験もデッサンで受けたんです、勉強したくなかったので。だから受験勉強は全くしてないです。後悔してますけどね、もっと勉強しておけばよかったと。

丸山）高校も短大も美術科卒業だそうですね。一昨年には絵本作家としてもデビューされていると。

リリー）そうですね。新人賞もいただきました。

谷）多才でいらっしゃって、マルチに活躍されているんですね。多才といえば、今回の展覧会でご紹介している竹久夢二もそうですね。リリーさんも夢二も、お生まれが岡山県なんですよね。

リリー）そうですね。僕は岡山県の和気郡というところの出身なんですが、夢二の生家まで車で 10 分とか 20 分で行ける距離です。それから僕は 1984 年生まれなのですが、1884 年生まれの夢二とはちょうど 100 年違いなんです。だから僕は勝手に、夢二の生まれ変わりだと自称しています。

谷）岡山の風土が芸術家や美術家にとってよかったのでしょうか。

リリー）どうですかね。僕の地元はめちゃくちゃ田舎で、夢二さんが唯一の有名作家といっていいくらいだと思います。地元でも夢二さんは特に有名でした。そして 100 年後には僕が転生しました。夢二さん、顔がかっこいいですよね。僕は好きです。

谷）夢二の生まれ変わりだとご自身で思うほど、何か共通点や惹かれるものがあったりしますか。

リリー）まあ、女性が好きっていうところですかね。そこは一緒かなと思いますけれども。美人好きですし、恋多き男です。

谷）恋多き男って、自分が相手のことを思っていても相手もこたえてくれないと成り立たないですよね。夢二はとても魅力があったんでしょうね。

リリー）夢二は恋人が何人もいて、それを絵にしているんですよね。

丸山）結婚したのは 1 回だけで、浮名を流していたようですね。絵のモデルの方などと深い関係になる中で名作が生まれていきました。相手のことを知れば知るほど描きたくなるのでしょう。相手の女性が持つ空気を投影しながら、夢二の考える理想の女性像が生まれてきました。

リリー）離婚した相手とも関係を続けたりしていたんですよね。

丸山）岸たまきという女性ですね。石川県出身です。夫を亡くして未亡人だったのですが、その夫が富山に赴任して美術教師をしていたこともあり、富山とのゆかりもある方です。

谷）今回の「YUMEJI 展」は、東京、岡山、大阪、富山と巡回開催しています。リリーさんは既に大阪会場、富山会場をご覧になったそうですが、いかがでしたか。

リリー）めちゃくちゃ面白かったです。夢二が油絵を描いていたイメージがあまりなかったので勉強になりました。あと絵画だけではなく、封筒や挿絵やデザイン画などもたくさんあって、そのあたりも僕は結構好きでしたね。デザイナーとしての才能もすごいなと。現代でもハンカチとかにしたら売れそうなデザインだと思いました。若い女の子にも受けそう。キノコのデザインも！こんな柄とか刺繍のシャツがあったら欲しいです。

谷）もしご自身が夢二として制作するならどのジャンルでどんな作品を制作したいですか。

リリー）あるのかも分からないですけど、夢二はあんまり静物画のイメージないじゃないですか。夢二は美しい女性とかをたくさん描いていますが、夢二の美学において、日常のどういうものを美しいと思っていたのかを静物画でも見てみたかったですね。

丸山）今回の展覧会では、1 点だけ《スヰトピー》という静物画が出品されていますね。ただ夢二らしいというよりは、当時の西洋画表現などを摂取して自分のものにしようとしている過渡期のようにも見えます。おっしゃるとおり、夢二のオリジナリティがある静物画というものは少ないかもしれませんね。

谷）リリーさんは即席似顔絵も得意だと伺いました。特徴をとらえて描くのが得意なんですね。

リリー）いえ、そんなに得意でもないですが。昔、ウェディングのウェルカムボードは頼まれて描いたことがあります。僕も夢二と一緒で人物を描くのが一番好きですね。人の顔ってみんな違うので面白いなと思うんですよね。例えば机とかは既製品で同じものがいっぱ

いありますけれど、自然や人物は同じものが無いので、僕は好きです。

丸山）性格や人生も顔に出るといいますよね。

リリー）(会場のお客様に向けて)すごいですね、夢二風の着物を着ていらっしゃる。

谷）さっそく富山美人を見つけられたようですね。

リリー）トークショーにしてはお客様と距離が近いですよね。なかなか無い距離だと思います。たくさん応募していただいたみたいで嬉しいです。

谷）リリーさんファンと夢二ファンの皆さんからたくさん応募がありました。応募総数約 600 件の中から抽選で選ばれたラッキーな皆さんです。

丸山）さて、今回の「YUMEJI 展」では油彩画の作品が 1 つの見どころです。夢二が描いたとされる油彩画で、現存する作品はわずか 30 点ほどだと言われています。その中の約半分が会場でご覧いただけます。夢二が油彩画を描いていたことはあまり知られていなかったと思います。挿絵とか日本画のイメージが強かったと思いますが、今回は油彩画家としての一面も見ていただけたら。

谷）まずは《アマリリス》という油彩画ですね。ずっと行方不明だったそうです。

丸山）約 80 年間行方不明でしたが、今回の夢二生誕 140 年記念の展覧会「YUMEJI 展」の準備をしている中で再発見されました。もともとは、夢二が滞在していたホテルにあった作品です。夢二がホテルのオーナーさんに贈りホテルの応接間に飾られていたのですが、そのホテルが閉業してしまったので行方が分からなくなっていました。関係者からは、夢二さんからの生誕 140 年記念のプレゼントかな、なんて言われています。今回の「YUMEJI 展」が、再発見後初公開となります。

谷）リリーさんは先ほど会場でご覧になってどんな感想を持たれましたか。

リリー）夢二のモナ・リザと言われているんですよね。初めて見ましたが妖艶ですね。夢二はこの女性のことが好きだったんだろうなと感じます。

丸山）この絵のモデルはお葉という女性ではないかと言われています。夢二の恋人の 1 人で、本名はカ子ヨ(かねよ)さんといいます。生計を立てるために職業モデルをしていました。実は夢二は元恋人の彦乃さんという方を亡くしていて、悲しみに暮れていた夢二の前に現れたのがお葉さんだったんですね。この《アマリリス》はそんなお葉さんを描いているのですが、目のあたりの表現が不思議なんです。色々なことを想像させるというか。

谷）リリーさんはどんな風にご覧になりますか。

リリー）やっぱりモナ・リザ的ですよね、どんな表情にも見えてくる。悲しそうにも怒っているようにも絶妙な表情です。

丸山）お葉さんと夢二は仲が良かったけれど年が離れていたので、喧嘩をして年若いお葉さんが泣いてしまう。本展監修者の岡部昌幸先生(帝京大学名誉教授・荏原畠山美術館館長)は、この《アマリリス》の表情は喧嘩のあと泣き止んだお葉さんを描いているのかもと推察されていました。また、お葉を描きながらも亡くした彦乃さんの面影を追い求めている、なんてことも考えられます。特定のモデルをそのまま描くわけではなく、色んな女性イメージが複合しているヴィーナスなのかもしれません。

リリー）たしかに、憂いを含んだ感じがしますよね。

丸山）和服姿で描かれていることで少女のようなあどけなさも感じさせます。それから髪飾りのようなアマリリスの花にも注目です。アマリリスの花言葉は「輝くような美しさ」。この作品は女性の美しさを表現していることは間違いないですね。それから手が大きく描

かれています。

リリー）フランスの画家、ポール・セザンヌがしているように、夢二も自分の好きなようにデフォルメして描いているわけですね。

丸山）美しさを引き立てるための技術ですね。顔や目だけが表情を出すのではなく、手からもその人の感情が出る。だからか、夢二の作品の女性は手や足が大きかったり長かったりします。

リリー）先ほど会場で夢二の作品を見ていたときも「なんだかバランス変だな」と思いました。明らかにおかしい、でも全体的にはまとまっている。絵として成立していました。そういうところが夢二のセンスなのかなと。

谷）続いても油彩画の作品です。《女》、またしても女性ですね。

丸山）この作品のモデルはおそらく、先ほど話題にも上がりましたが唯一結婚した女性、岸たまきさんではないかと言われています。離婚した後もつかず離れずの距離感で交流を続けていました。

リリー）さっきの《アマリリス》よりも表情にちょっと余裕がありますね。本妻としての余裕か…。自分の奥さんを《女》って、なんだかよそよそしすぎません？

丸山）作品タイトルは必ずしも夢二がつけたわけではないんですよ。たまきさんは夢二よりも年上だったようです。うりざね顔で白い肌、少し目がうるんだ感じで描かれています。今回の展覧会で展示している作品はほとんどが夢二郷土美術館のご所蔵コレクションなのですが、この《女》という作品は、美術館設立の契機になった第１号収蔵品のうちの１点でもあります。この作品が美術館設立者の方と出会わなければ、今日ここで皆さんに夢二の作品をたくさん見ていただいてリリーさんにお話しいただくことにもならなかったのかもしれない。そういう意味でも大事な作品ですね。

リリー）夢二って何点くらい作品があるんですか。

丸山）はっきりとした数はわかりませんが、分野の垣根をこえて制作されていたので膨大な数あると思います。

リリー）夢二が生きてる間から既にこんなに評価されていたんですか。

丸山）人気作家でした。でも油彩画家としてというよりは、やはり大衆のためのアート、例えば挿絵とかで名を馳せていました。画家としては、自分で展覧会でプロデュースし、自分でポスターをつくったりもしています。そのポスターも今回展示しています。

リリー）イベンターみたいなことですね。そういえばジャーナリストみたいな活動もしていたとか。すごいですよね、頭良かったんだろうな。刺激を受けますね。アーティストってなんとなく不器用なイメージもありますが、夢二はすごく器用。デザインもしているし、社会情勢にも敏感で新聞社での仕事もしている。

丸山）もともと絵が好きだったようですが家業を継ぐよう親から言われていたので、画家として立つため家出同然で上京しています。そのためアカデミックな教育は受けておらず独学で絵を学びました。

リリー）さっき下調べしていたんですが、東郷青児とかとも交流があったみたいですね。美人画の巨匠同士で。夢二の前の時代にも美人画で有名な画家はいたんですか。

丸山）美人画は浮世絵の系譜の上にあるので、歴史は長いですね。あとは藤田嗣治とか。色んな日本画家たちが美人画を手掛けています。

リリー）でも僕は美人画といえば夢二のイメージが強いです。

丸山）作家名を伏せられていても、絵を見ただけで夢二だとわかる方は多いと思う。そこはすごいですよね。

リリー）たしかに唯一無二ですね。誰とも被っていない。そこが夢二の魅力なんだろうなと思います。

谷）もう１つの油彩画が《西海岸の裸婦》です。

丸山）先ほどの《アマリリス》や《女》はどちらも大正期に描かれていますが、本作品は昭和初期の制作になります。

リリー）西洋からの影響を感じますね。

丸山）夢二は亡くなる２，３年前に外遊、ヨーロッパやアメリカを訪れていますがその時の制作ですね。《アマリリス》や《女》を描いたときは外遊前なので、日本にいながら西洋のものを見聞きして吸収し、描いていました。

リリー）描かれている女性も日本人じゃないですね。

丸山）そうなんです。今までは日本の女性を描いていましたが、ロシア人女性をモデルにした挑戦作です。

リリー）背景はシーツでしょうか。これも日本らしくはないですね。そういえば展示室に、フランスの画家、ポール・ゴーギャンの影響を受けたような作品もありました。土着的な雰囲気の女性画でした。

谷）リリーさんはいろんな展覧会に足を運んで発信されていることもあって、やはりお詳しいですね。

丸山）西洋美術をご存じだったら、この絵の裸婦のポーズにもぴんとくるかもしれませんね。横たわる裸婦の像は、ヴィーナスが描かれることもあれば現実の女性をモデルにしたものもある。

リリー）フランスの画家、ドミニク・アングルの《オダリスク》もそうですね。この絵の裸婦も《オダリスク》のように胴が長く描かれているような気がします。

丸山）まさにそうですね。ただ、美術史上の横たわる裸婦像をそのまま真似たわけではなく、夢二独自の表現に落とし込んでいるのがポイントです。

リリー）油彩画は夢二が晩年から始めたのですか。

丸山）いえ、早い時期から描いています。夢二はもともと詩人になりたかったのですが、生計を立てることを考えて詩人ではなく画家の道を選びました。だから「詩人画家」とも呼ばれますが、詩を書くように絵を描いているところがあります。それからこの《西海岸の裸婦》は、約 10 年前の生誕 130 年記念展準備の際に再発見された作品なのですが、エックス線での調査を行ったところ、裸婦の腰の部分はもともと腰布で覆われていたことが分かったんです。現実の女性を描くときは隠すのが相応しいという伝統があったので、そのせいかもしれません。

リリー）この女性とも夢二はお付き合いしていたんですか。

丸山）いえ、この方とは恋人関係ではなかったような…。

リリー）背景にストライプを入れるのも西洋絵画の影響なんですかね。そんな風に色々影響を受けて、夢二の作風も時代を追うごとに変わっていったんだなと感じました。

丸山）背景に関しては、細かく風景などを描かずに、ストライプの配色にアメリカの空気感を託しているのかもしれませんね。空や海や大地など、日本とは違う風土を色で表しているようにも思えます。ストライプが体のラインに沿っているのも特徴です。それから

女性の肌の色にもご注目ください。日本人とは違いますよね。当時の日記に夢二は「この肌の色を表すことができる絵の具が無い」と、苦心を吐露していました。

谷）それから夢二式美人を代表する作品が《こたつ》です。

リリー）あー、この作品は良いですよね。好きです。欲しいなあ。

丸山）富山ゆかりの作品なのですが、今日(2025 年 6 月 8 日)までの展示なので、ぜひ皆さんしっかり目に焼き付けてくださいね。

谷）先ほどご覧になっていましたが、リリーさんいかがでしたか。

リリー）僕はこの作品好きです。夢二のほかの作品は女性 1 人で描かれているものが多いので、3 人描かれているこの作品は印象的でした。ちょっとエロティックな雰囲気もあるし。1 対 1 の関係よりも複数の女性に囲まれるのが夢二の理想だったのかなとか考えちゃいます。

丸山）この作品は富山市の現在の総曲輪あたりにあった「渦巻亭」という料亭で画会を開いたときに出品されたといわれています。現存する夢二作品の中では最大級です。富山会場では展示しませんが、《一力》という屏風と対になる作品です。芸妓さんがどんちゃん騒ぎをしている《一力》が「ON」の状態であり「動」、それに対して《こたつ》はリラックスした「OFF」の状態で「静」です。普段表には出さない芸妓さんの「OFF」の状態を描くのは、フランスの画家、トゥールーズ・ロートレックなどとも共通していますね。そういう時にむしろその人の本質が出ると考えているのかもしれません。

リリー）画材は何を使って描かれているんですか。細かくてすごいですね。

丸山）日本画の画材です。墨や岩絵具などです。色が鮮やかで、着物の柄なども手が込んでいます。デザイン的なセンスが光っていますね。描かれている女性はいわゆる夢二式美人で、ちょっと S ラインが強調されている感じもあります。

谷）この他にも夢二式美人を代表するような作品がたくさんあります。《秋のいこい》も素敵ですね。

丸山）この作品も《アマリリス》と同じくお葉さんがモデルです。断定できる写真も残っていて、展示室で掲示しています。

リリー）ちょっと世の中に憂いているような表情が良いですね。

丸山）この作品が描かれた当時はスペイン風邪が流行していた。だからその時代性を反映させて表現しているのではないかという研究者の方もいらっしゃいます。先ほどおっしゃっていた夢二のジャーナリストとしての視点が感じられますね。ただ美しい女性を描いているだけではなく、その当時を生きていた人の空気感も描きたいという思いからかもせれません。

リリー）落葉が多いのも気になります。

丸山）落葉は、スペイン風邪で亡くなった方を追悼しているのではないかという見方もあります。《秋のいこい》というタイトルは夢二がつけたわけではないそうなので、もしかしたら「いこい」の場面では無いのかもしれません。

谷）そして夢二式美人の完成系と言われるのが《立田姫》です。

リリー）これは夢二が最も美しいと言った作品なんですよね。すごい細い体のライン…。

丸山）ザ・ミスニッポンだそう。後年のベストワンと言ったそうです。

リリー）この女性は豊作を願う女神なんですよね。なんだかいまの時代とも重なります。スーパーとかにこの絵飾っといたらいいかも。

谷）まだまだお話を伺いたいんですけれど、そろそろお時間ですね。リリーさん、ありがとうございました。